

【寄稿】 奥田を語る

手嶋, 秀昭
元福岡県議会議員

組坂, 繁之
部落解放同盟福岡県連合会執行委員長

<https://doi.org/10.15017/7148412>

出版情報：奥田八二日記研究会会報. 11, pp.341-349, 2023-09-30. 奥田八二日記研究会(九州大学大学
文書館内)
バージョン：
権利関係：



【寄稿】

奥田を語る

◆手嶋秀昭（元福岡県議会議員）

ご紹介いただきました。元県議会議員の手嶋秀昭です。奥田知事との思い出を語ってくれということでご指名をいただきました。奥田知事は 1983 年 4 月知事に就任をいたしました。当時、私は川崎町議会議員でした。

奥田知事は、野党から攻撃をされ、苦渋の日々が続いておりました。そのような中、NHK がそういう非常に厳しい状況の県議会本会議を、国会のように中継しました。そうすると、攻撃する野党の議員の事務所に女性から、「奥田知事をいじめな」というような抗議の電話がかかるようになりました。「奥田いじめ」という言葉が新聞やマスコミでも使われるようになり、その状況はずっと続き、苦難な 4 年間だったと思ってます。

私は、1987 年、昭和 62 年、奥田知事が 2 期目のときに、初めて県議会議員に当選をさせていただきました。そのときの定員は 90 名でありましたが、社会党（当時、現・社民党）の会派の議員は 20 名、共産党が 5 名、与党議員は 25 名、野党が 65 名という構成でありました。

奥田知事 2 期目、私は初めての県議会。非常に順調でした。拍子抜けするような感じがありました。

1 期目のときに、奥田知事の大敵と言われた自民党の県議会議員が、県南に 1 人おりましたが、奥田さんの 2 期目選挙の時（統一自治体選挙で知事と県議会議員の投票は同一日）、落選したんです。すると、自民党の野党の中で、「奥田いじめ」をすると、今度は自分が有権者からしっぺ返しを受ける。だからもうあんまり「奥田いじめ」は出来ないと遠慮するようになりました。結果としては、福岡県議会は非常に順調に建設的な議論が進んでおりました。

問題は、消費税国会でした。1988 年、昭和 63 年 12 月 14 日に、消費税法が国民の大きな反対があったにもかかわらず、強行可決をされるという事態がありました。消費税が可決され問題は、その翌年から実施をするということになりました。

とにかく、昭和 63 年の 12 月 14 日に消費税が国会を通過して、昭和 64 年、1989 年 4 月からこの法律が施行されるということになったもんですから、もう、県議会としては、12 月議会終わったら、すぐ新年度の予算編成に関わっていかなきゃならん。その予算編成にかかるときに、消費税を含むか含まないか。大きな問題になったんです。

与党県議団の中でもいろいろと意見はありましたが、最終的には、奥田県政を支え、とにかく推進するという立場からすると、消費税を含まないでは、予算が成り立たな

い。だから、奥田県政が、消費税を導入する事を容認する決定をいたしました。党の各級機関、あるいは、労働組合や支持団体の皆さんともいろいろ協議をさせていただきました。ここでもいろんな意見が出てまいりました。しかし、「もう法律が出来たんだから、我々としては反対だけれども、『悪法もまた法なり』で、これはのまざるを得ない。」最終的には、消費税を含んだ予算が、新年度予算として、翌年の3月に、県議会に提案されました。

あれだけ反対をして、消費税が可決されると、書類上、与党の社会党が県議会に提案してくる。そんな議論には参加出来ないと厳しい実態がございました。

予算委員会に入るまで、本当にいろんなことをしまして、何とか提案をし、議論も進み、3月27日、議会の最終日でした。この日になっても、なかなか議会が開会しない。3月27日夜、11時50分、やっと本会議開会のベルを議長が押しました。そこで決めたのは、会議を28日まで1日間延長するということです。27日が終わって予算はもう議論がされないわけですから、1日だけでも延長して、また議論してほしいということでありました。ホッとて、28日になりました。しかし、ここでも議論が進まない。また夜中の11時50分近くになると、12時を超えると流会しますから、1日でも延長しなきゃいけないと。そしてまた、28日が29日になりました。29日が30日。30日が31日になって結果としては、3月の31日、正念場です。この日の12時を過ぎると、もう予算については審議出来ないんですね。11時59分まで予算だけは通しておかないと。廃案になります。予算が流れます。そうすると、4月からの予算も使えないわけですから、大混乱が起こる。

何とか予算の審議をしてもらわなきゃいけないと、やってきましたけれども、これもなかなかうまくいかない。そしてまた、23時50分になりました。こうしてまた、「予算を流したら、大混乱をする。そうなったら自民党の責任だ。」という主張も、いろんなことを言いながら、最終的には、予算だけの審議を先にして、24時前に予算だけを通過をさせるということになりました。

会期は1日延長してますから、そのまま議会を続行します。4月1日、朝5時ぐらいになってですね、やっと、条例その他の案件が可決成立をして終わったというような経験があります。

少数与党というのは、大変なことだということは、初めて感じました。何とか、乗り越えることが出来たんですけども、奥田さんが、本当にすごいのは、非常に粘り強く、根を上げない。幾ら躊躇っても我慢して、大変有用な人でした。

予算特別委員会の委員長は自民党から議長経験者を、副委員長は第2会派の社会党から選出します。社会党からの場合は、1年生議員を出すんですよ。林武彦団長(当時)が1年生議員を勉強させるためにと、それで随分と私も鍛えられました。

予算特別委員会は資料要求が全てです。資料要求が出ると、資料作成のために議会は休憩になる。そして再開したら、また資料要求する。

ある時、総務部長が突然、泣き出したんです。涙を流して、自民党から出された要求の

資料をつくったら、1000 枚を超える膨大な資料を短時間で作らないと。

いろんな苦労させられましたけども、奥田知事は最後まで、毅然として筋を通すから、職員も、頑張るしかないってことで、結果的に乗り越えることが出来たんじゃないかと思っています。議会運営は大変な苦労がありました。

私に取り組んで、経験した 1 つに宮田工業団地があります。

私が当選した翌、翌年の 1988 年、平成元年に工業団地を売出したい旨を執行部から私どもに提案がありました。宮田工業団地は大きな工業団地だからあれを切り売りして、小さい会社が幾つ集ってもしょうがない。切り売りせず、一括販売し、大企業誘致をするというようなことで取り組んだらどうかと提案しました。異論無く、賛成で決まったんです。

決まったのはいいが、これを今度はどうするかって、どこ(企業)を誘致するかということで、いろいろ考えていた最中に、あるビール会社が九州に工場をつくることを発表したんです。ビール工場誘致に向けて、議会も執行部も結束してやりましょうと、気運が高まり取り組みを始めたんですけれども、「九州で」と発表したもんだから九州七県全部が名乗りを挙げたんです。誘致合戦で動いていく中で、ビール会社も最終的には、福岡と長崎、熊本 の 3 県に絞るという中間発表をしました。しかし、最終的に福岡は「水」に難点がある。ビールはやっぱり「水」が命だから、湧水が豊富な熊本に新設を、これがビール会社の回答でした。結果、ビール工場の誘致には失敗しました。

その後、悩みました。

あれだけ広大な面積をどんな会社だったら来られるか。私も一括売却を提案した手前、いろいろ考えても、あれくらいの広大な土地を使ってくれるというのは「自動車」しかない。自動車会社の誘致に向けて、どこに絞ったらいいか考えていくと、ニッサンはもう既に苅田。ダイハツは大分にあります。ホンダは熊本。これはもうトヨタしかないんじゃないかと。私は判断し、奥田知事に提案しました。

「ビール工場誘致に失敗したから、あとは、自動車しかないと思う。奥田知事は「アジアに開かれた福岡県」をキャッチフレーズにしているから、それをうまく使って、トヨタ自動車さんと交渉したらどうですか。」

次は、産炭地対策調査特別委員会で、議論するんですけども、その中で、執行部のほうから、「トヨタ自動車これから頑張りたい。御協力していただきたい。」と提案がありました。私も、もういち早く賛成演説をして終わったんです。

すると新聞社が私のほうに来るんですよ。「野党の議員は、トヨタ自動車来るわけないと。愛知モンロー主義と言われるぐらい、愛知にこだわるトヨタ自動車来るはずがない。大丈夫ですか。」と言ってくるんです。私は、「大丈夫じゃない。九州に進出してくるといいうビール会社誘致に失敗したんだから、まだトヨタとも、自動車とも、何も決まっていな。確かに愛知モンロー主義と言われるぐらい、愛知から一歩も出ないというトヨタを誘致しようとするんだから、簡単なことじゃない。しかし、福岡県がこれから宮田工業団地

を有効に活用するためは、もうこれしかない。何とか、決められて、乗り切っていくということを考えるしかない。」と言いました。

その後、私は知事と 2 人で、愛知のトヨタ本社に何度も行きました。私どもが行った後、執行部が資料を用意してまたトヨタ本社に行くという事が続きました。

ある時、それまでは対応してくれる人が常務だったんですが、知事と行ったとき専務が対応しました。帰りの飛行機の中で、私が「今日は専務が対応してくれたから脈が出てきたんじゃないですか。」と言ったら、奥田知事も「そうだね。そんな感じだね。」と言っておりました。その後、もう 1 回、トヨタ本社に行くと「福岡に行きます。」と回答してくれたんですよ。最終的に決まったのが、1990 年、平成 2 年 10 月 30 日、トヨタが宮田工業団地に進出するということを正式に表明しました。その翌々月から工場建設に着工して、1992 年 12 月、完成と同時に、操業を開始しました。

トヨタの進出が正式に決定したときに、新聞記者がまた、野党の議員からいろいろ話を聞いてきます。「トヨタともあろう会社は何で、革新県政に利するようなことなんで決めたのか。」そんなことを言っていたそうです。宮田工業団地の誘致に向けて、県政野党の動きが鈍かったというのは、そういうことだったのか。「革新県政に利点を取られたら困る」という、そんなことがあったのかというような思いもしたんですけれども、結果としては、そういう下世話な話に関係なく、トヨタが福岡進出を決定をしてくれた経緯は、今日もトヨタが九州の大きな工場で操業を続けてるということでもあります。

もう 1 つ苦労したのは、篠栗線と筑豊線の電化工事です。

このとき私は産炭地対策委員会副委員長をしておりました。奥田知事と 2 人でまず運輸省(当時、現：国土交通省)に陳情に行きました。運輸省の鉄道監督局に行って話をしたんです。局長は当たり障りのない話でした。局長の下には次長がおりますから、同じような話をしに行きました。するとその次長が奥田知事に対して、「何を考えてますか。今、JR は民間会社ですよ。民間会社に国が直接補助金出せるわけがないでしょう。」そんな言い方するんですね。私は頭にきて、「何を言っているんだ。局長は何とか検討すると言っているのに、逆ではないか。」と言ったら、奥田知事が私のスーツの裾を何度も引っ張りました。

帰りの新幹線の中で奥田知事は私に、「陳情に来て、喧嘩したのは初めてだ。喧嘩をしてはいけない。」と言われましたので、「すいませんでした。やっぱり冷静になって考えたら、今から正式に陳情文書を出しても、あんな対応じゃ、次長のところを通らんと局長には上がない。全く話にならんですよ。」というのと、奥田知事は「そうだね。これは何か検討しないと。」と言ってました。

それから 3 ヶ月も経たないうちに、県や沿線自治体に参加する「福岡筑豊都市鉄道開発株式会社」という第 3 セクターの会社が立ち上がりました。

設立総会后に、再度、奥田知事と 2 人で運輸省に行ったんです。またその次長がそのまま在職しておりまして、知恵を出してくれて、「これだったら、国の補助金を出せます。」

と言われて一安心しました。

事業費の予算額は、140 億円と決定されたんですね。140 億円をどう捻出するかっていうことではまた苦慮したんです。国の補助金が出ればいいと思ってたのに、県の土木職員は「自分たちは、鉄道の測量や電線張りを含めた設計はしたことがないからできない。」と言いつ出したんですね。また、これはちょっと困ったね。ということで、いろいろ見せて、説明をしましたが、結果的には元の木阿弥で、JR が設計・管理をして、県が補助金を出すということになりました。

お金をどう出すか。補助金適正化法で事業費の 2 分の 1 を超えてはいけないというのがあります。だから 140 億円の残り 70 億円をどうするか。私は JR にどれぐらい出せるかと尋ねました。JR の担当部長は、「JR としては、車両も買わなきゃいけない。10 億円が限度だと思います。」JR が 10 億円出してあと 60 億円をどうするか。

最終的には、飯塚の国会議員のところに行きました。たまたま、その秘書が、私に教えてくれたんです。「産炭地振興法は、石炭関連産業等の振興を図る“等、がありますから、鉄道もその中に入るはずですよ。」

早速、知事と 2 人で、国の担当部長と話しました。「産炭地の鉄道は、今もうは廃線になっとるけども、前は、東京の地下鉄よりももっと密度が高かった。人間を送るためじゃなくて石炭を運送するために、鉄道線路を引いた。産炭地の鉄道は、石炭関連産業の最たるものですよ。」という話をしたら、「その理屈だったら国会でも乗り切れます。」結果的には、平成 13 年度で石炭三法が失効しますから、平成 9 年から 13 年の 5 年間、1 年間に 4 億ずつ、20 億円出してくれたんですよ。

残り 40 億円をどう作るかということで、これはまた大変だったんです。

国と県で産炭地域の振興のための基金 85 億円を運用する「県産炭地振興センター」がありました。県は副知事が理事長を、私が理事をしていました。副知事に「85 億円のうち 40 億だけ取り崩して、それを JR 九州に無利子で貸し付ける。産炭地振興センターには基金が減って利息が少なくなった分だけ一般会計から補填するということで対応できるか。」と話したら、副知事は「それだったらいいですよ。」という話で副知事が最終的に判断しました。

奥田知事も私たちのこの案を了承してくれました。JR は最初 10 億円と言ってましたが、精いっぱい努力して、15 億円負担してくれましたので、基金を 35 億円取り崩して、JR に無利子で貸付け、総事業費 140 億円も目途がつき、JR の事業として筑豊線・笹栗線の電化事業が完成しました。

奥田知事が、頑張ってきたということだけ申し上げたいと思うんです。

最後に、奥田知事がもうこれで引退する、これから新しい知事をつくることになってきたときに、私は、「知事さん。長いこと御苦労されたけども、辞めたいと思ったことは何回もあったでしょ。」と言ったら、奥田知事が「“今日、知事を辞める。〰と朝出かけに言ったらいいんです。そしたら奥田幸(妻)さんが、〰何ということを言いますか。あなたを支持

した 120 万の有権者にどう答えますか。」とバシッと言われた。それから、何回も辞めたいと思ったけど、あんたたち(与党)にも「絶対に辞めるな」と言われるから辞めるとは言わなかった。奥田さんはいつも墨汁を持っていたから、嫌な議員に墨汁をかければ、とにかく辞めなければいけなくなるから、これで決着するから、それで辞めようかと、思ったこともあった。」そんな裏話も聞かしてもらったことがあります。

有権者の皆さんの期待にこたえるという気持ち、公約を実践するために頑張ってきた人だなというふうに思ってます。以上です。ありがとうございました。

◆組坂繁之（部落解放同盟福岡県連合会執行委員長）

ご紹介いただきました組坂です。

12 時も過ぎておりまして、お腹も空いておりまして、私も何か長すぎて、あんまり声がでないんじゃないかなろうかと。いや聞こえますでしょうか？大丈夫でしょうか。

まあ、今年ちょうど全国水平社が創立されて 100 年であります。日本における最初の人権宣言と言われる全国水平社宣言が発せられて 100 年になるわけですが、3 月 3 日の日に京都の地で全国水平社創立 100 周年記念式典を挙げることもできました。

日本における最初の人権宣言と言われる水平社宣言ですが、各新聞テレビでも大々的に取り組んでいただきました。大変ありがたいことですが、それだけ人権というのが日本社会の中に定着をしつつあるなと思います。

先ほどの河野先生のお話にもございました。かつて障害者がいるということは家族の恥だったんですね。だから、障害者は家の納屋とかそういうところに閉じ込められると。こういうような人を何人も見てまいりました。そのこと考えますと随分とまあ良くなってきたなとおもいます。まさに障害者の問題というのは障害者のことではなくて、社会の問題であることがいま先生の話で明らかになったところでございます。

この水平社宣言を発したわれわれの先人たちも単に部落差別をなくせというわけじゃなくて、人間の尊厳を求めるとこういうこと、こういうことでありまして、つまり、それは一人ひとりの人間が人間として尊重されると、人間であるから尊いと、このことを訴えたわけでございます。ここ福岡はご存じの通り解放の父と言われた松本治一郎先生、初代の参議院の副議長でもございますが、先生の生誕の地でございます。

奥田知事誕生の際には松本先生の後を受けた愛弟子である上杉佐一郎、第 4 代目の中央本部委員長、この方が委員長の時代に頑張られたわけでございます。

私はまだ当時は奥田知事が当選された頃は、筑後地区協議会の書記次長か書記長でございました。奥田知事がニュースカーでおいでになって、ちょうど私は西鉄小郡の古い駅舎の前で、朝うちの連れ合いとお待ちしていました。うちの連れ合いは市職労でございます。職労の（当時は婦人部と言っていましたが）婦人部の役員をしておりましたので、亀井県

政の批判として「親亀こければ子亀もこける」ということですね。奥田候補を応援するための何と言いましょかイラストみたいなのを描いて、私が文章を書いて、奥田知事を今度は当選させようと、頑張ったんです。そのころ小郡の駅の前に候補がおいでになりまして、私には娘が 2 人おるんですが、下の娘がまたちっちゃくて、この子らを連れでいってあったんですが、知事が知事候補がですね、奥田候補が窓から身を取り出して 2 番目の娘、まだ赤ちゃんに頬ずりして、可愛いねといってもらったことを今でも思い出します。その時にこの方はこんなことは非常に人間として温かい人なんだがということを感じました。

私はこの水平社宣言にありますように、「人の世に熱あれ、人間に光あれという」ことでございます。今まで「愛してる」とか「好きだ」とか「友達だ」と言っていた人間が部落出身だとわかった途端、急に変る、まさに手のひらを返すように人間がかわって冷たくされる。そういう経験をしておりますから、その人物がいかにも人間として温かいのか、だいたいの直感的にわかります。その点に奥田八二知事候補は本当に人間としての優しさ、本当にあの弱い立場の人のことを真剣に考える人だなと、その時には私は強く感じたのでございます。それ以来、とにかく奥田候補のことで何としても頑張りたいと思いました。

福岡市民会館だったんですかね。あの時にはちょうど美濃部さんが東京都知事。飛鳥田さんも横浜市長とかなんかですね。これ大阪は黒田一さんが府知事なので、太平洋革新都・府政、革新市政ベルトラインとか言われた時代だったと思いますが、その時に向坂逸郎先生も応援のお話をくださいました。

「美濃部君が東京の都知事で頑張るとるが、「美濃部君のことを毛並みがいいから、なかなか」という友人がいた。俺はその友人に言った。「先生が君はその美濃部君とお風呂に入ったんだな」ということでありまして、何を言いたいか、先生はつまり、向坂先生はそういう毛並みとか、何とかよりはその人間の視点ですね。人格、その人そのものが大事なんだということを言いたかったんだなということを感じました。また、奥田候補が出た時にはテレビがですね。ドリフターズの「8 時だよ。全員集合」があったということなんです。ですから、私とこの子供たちよく知っているんですね。あのニュースカーが来て奥田八二ですという、「お姉ちゃん、8 時だよ。全員集合がきたよ」と言ってましたね。

それからもうひとつは県民の会がございましたね。その県民の会にはいろいろの応援弁士がやるわけですが、その頃はですね。県民の焼きビーフンの PR があっておりまして、コマーシャルはうちの子供がその福岡市民会館の奥田知事の決起集会の時に、「県民の会は県民会というけど、お姉ちゃん、“ケンミンの焼きビーフン” やろうかね」と言ってましたね。

そういうことで、やっぱりあの子供たちが親しみを持てるというのは非常にいいことでございまして、私はこれ行けると思いましたですね。そういうこの奥田八二についての最初の出会いというのは子供をとおしてことでございました。

今、先ほどからお聞きしますと、「旗は上がっているか」ということをよく言われた。つまり、それは常に大衆のために、本当に働く人のために、厳しい立場に置かれる人のために戦っているか、しっかり声を上げているかということを奥田先生は言われたんだと思います。

奥田先生は「組坂さん、私は貧乏百姓の子供だから縄を綯うのはうまいんですよ」と言っておられたことを思い出します。色々とまあ、山本さんとか、森山さんから色々と奥田八二日記などもお話いただきました。読ませていただきますと、本当にご苦労なさったなとおもいます。

先程、手嶋元県会議員のお話もございましたが、本当に大変な状況だった。特にみゆき夫人のお布施事件もありまして、これはもうそこまでは追い込んだら奥田さんも学者だから、そんなにしぶとくはないだろうと。こういう風に権力側は踏んだと思います。

しかし、幸夫人もよく頑張られました。そして知事も頑張りました。県民はよく見ています。どういう人がどういう立場で、県民のために戦ってくれるか。頑張ってくれるか。本当に奥田知事はかわいそうじゃないかと。そういう世論が澎湃として巻き起こって、そして奥田知事は3期12年の任期を全うされたのでございます。本当に私は立派な素晴らしい知事であったと、このように思うところでございます。

私はささやかな力でしかございませんでしたが、奥田知事を支えさせていただいて、皆さんと共にこうして奥田先生の生誕100年という記念会を催すことができますことをほんとうに嬉しく思います。私ごとが奥田先生を語るというのはおこがましいことですが、先生が本当に厳しい状況の中にある人たちにこそ手を差し伸べなければならんというお気持ちに敬服します。産炭地においても、あの黒い羽根、なかなか黒い羽根運動などというものを立ち上げることは簡単じゃないですね。そういうものをちゃんとやってきた上で、しっかり自立をしていかないかんよというような。そういう温かい。これは政権の側がいったような冷たい意味じゃなくって、自ら立ち上がって、そうした努力をしなきゃならんよ。当たり前の話です。

私たちは奥田精神というか奥田先生の志というものをしっかり受け継ぎながら、「平和なくして人権なし、人権なくして平和なし」。このことを合言葉に頑張っていかなければならないと考えているところであります。

2016年、先ほど河野先生言われましたように、「障害者差別解消法」ができました。「部落差別解消推進法」もできました。「ヘイトスピーチ解消法」もできました。さらにちょっと遅れてアイヌ新法ができました。然しまだまだ本当の人権侵害の救済の法律ができておりません。人権侵害の救済の法律、人権委員会を設置することが何としても必要であります。そして、世界から一切の差別をなくしていかなくてははいけません。

今日世界の富豪8人の資産と2億人の労働者の資産が同じである。こういうようなとんでもない社会になっておりますね。こういう社会は改めていかねばなりません。

その結果どうですか？ロシアによるウクライナへの侵攻、とんでもない事態になっているわけでございます。奥田先生が生きていたら、どんなに嘆いておられるでしょうか？同時に我々もそうです。

ミャンマーもそうです。軍事政権が民主運動を弾圧する。こんなことが行われてはいけません。ミャンマーにおける内戦をなくするためには、更に皆さんと一緒に頑張っていかなければならない。

そのことが奥田先生が言う「旗は立ててますか？」「旗は上がってますか？」そのことに答えることではなかろうかと、このように思うところでございます。

最後になりますが、松本治一郎先生は人間 100 歳生きるとして、99 歳と 364 日、どんなに立派なことしとっても最後の 1 日で失敗すれば、それまでの努力が水泡に帰す、まさに水の泡になるんだと。こうおっしゃいました。

松本先生は最後に病院に入る時。自分がおかしなことを言い始めたら、お医者さんに言って殺してくれと。言われたそうです。こんなリーダー、私は聞いたことがございません。自らの言動に責任を持つということだろうと思います。まさに最後の 1 日まで、その先生、部落解放、人間解放のために戦われたからこそ、言われた言葉だろうと思います。私ども、そうした先人の教えというものをしっかり受け継いでいかなければなりません。何回も申し上げますが、「平和なくして人権なし。人権なくして平和なし」。

そして、奥田先生が言うところのしっかりと旗を掲げていく、旗を降ろさない。そういう奥田先生の生誕 100 年の記念会であると、このことを私の肝に銘じていきたいと思えます。皆さんとともに頑張り抜きたいと思えます。今日はこうしたスピーチをさせていただきましたことを参加者の皆さん、これは先生初め、皆さんに心より御礼を申し上げまして、時間が過ぎておりますので、以上をもって、私からのスピーチとさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

＊奥田八二あだ名集

- ①おくだパージ
- ②奥田ハニー
- ③おくだは、ちじ
- ④八時だよ全員集合
- ⑤おくだ八ちゃん
- ⑥ヤジロベー

※本稿は『奥田八二生誕 100 年記念集会記録』に掲載されたものを転載したものである。